静岡県在住の
東日本大震災 被災者支援活動
「OHANA」（オハナ）

① ３月30日・31日
お花見バス旅行

2011年７月より継続して行っている被災者支援活動「OHANA」の初めての宿泊による交流で、30名近くの参加者がありました。日程は、大室山さくらの里での桜見物や酪農王国オラッチェに立ち寄り、ウェルサンピア沼津にて宿泊しました。温泉につかって日頃の疲れを癒し、ゆったりと交流をされ、子どもたちは元気に遊び、また大人同士の会話がさらに弾みました。しかし、参加された方々から当時を振り返った惨憺たる体験をうかがい、改めて想像に到底及ばないほどの被害の甚大さを痛感いたました。それでもなお、前を向いて生きていこうとされる参加者の力強さを感じました。また、「楽しかった」「夢のような時間となった」などの声をいただきました。今後も継続して活動を続けていきたいと思っています。

② ５月26日
富士宮浅間大社･もちや遊園地

世界遺産に認定された富士山のふもと、富士宮の浅間大社参拝ともちや遊園地でアスレチックをしました。あいにくの曇天で富士山は顔を隠していましたが、子どもたちは元気いっぱいでした。

浅間大社では、お参りの後におみくじをひいたり、湧玉池から出ている水を触った子どもは、その冷たさに歓声を上げていました。また、お宮横丁で名物の富士宮焼きそばを昼食用に購入する方もいました。もちや遊園地では、遊具やアスレチックで遊びました。子どもたちが遊んでいる間、おとなの方がたは談笑して、午後のひと時を過ごしました。帰りは新東名高速道路の駿河湾沼津ＳＡに立ち寄りました。

東北の方々に静岡県が誇る秀峰富士山を体験していただいた一日でした。

団体名 Beサポート の由来について

「Beサポート」の「Be」は、英語の「be」、つまりあらゆる存在を表す動詞から来ています。その名詞形は「Being」。存在、実在、のほか、人生や本質といった意味があります。「Beサポート」という団体名には、どんな人の存在も尊重し、その人の生き方や人生をサポートし応援したい、という私たちの思いが込めてれています。

そして、ロゴマークでは、「Be サポート」という団体名が、四つ葉のクローバーの葉の一枚になっています。私たちの活動が、皆さんの幸せの四つ葉の一枚となれば、と願っています。

地域の皆さんが幸せになりますようにとの願いを込めたロゴマークのクローバー。そのままこの「クローバー通信」として会報の名前となりました。

平成25年度発達障害支援事業
第２回講演会
「発達に偏りのある子どもが生活しやすくなるために」
講師：静岡大学教育学部准教授
香野毅先生

６月30日、沼津市内にあるサンウェルぬまづの多目的ホールで、ご好評頂いた昨年に引き続き静岡大学教育学部准教授の香野毅先生をお招きして、「発達に偏りのある子どもが生活しやすくなるために」と題して講演会を開催しました。

今回は第１回とは異なり、理論よりも実際の対応の仕方に重点を置いた講演でした。また先生が実践している具体例や事例についてお話しされました。

スタッフの予想を上回り、参加者は保護者や支援職の方々がほぼ同数で、100名を超えました。講演後には参加者から多くの質問があがり、先生には閉会の時間を延長して答えていただきました。２時間があっという間に過ぎ、盛況に終わりました。大変わかりやすい講演をありがとうございました。

～参加いただいた方からの声～

★「母が頑張らなければならない」と思って終わる講演会が多い中で、今日は肩に力が入らなくて、「これからこうしよう」という具体的な見通しが持てました。（保護者）

★子どもの視点でこういう考えだからこういう行動をしている、という説明でとても分かりやすかったです。ADHDや自閉症の子どもの支援を行うことになったとき、是非参考にさせていただきます。（支援職）

コラム

「聴く」ということ　～ゲートキーパー研修会に参加して～

当団体は、静岡県より自殺対策民間団体等支援事業の助成をいただきました。その一環として、県が企画する専門研修と一般研修に参加しました。ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づいて、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげて見守る人のことです。

カウンセリングの基本である「傾聴」は一言で言うと「話を聴くこと」です。昔、臨床心理士の勉強を始めた頃に、「カウンセリングは傾聴に始まり、傾聴に終わる」と教わりました。習いたての頃は、相手の話したことをおうむ返しに、「あなたのおっしゃることはこういうことですね」と教科書通りに返していました。自分ではぎこちなかったり、不自然な感じがしていました。“相手の人の気持ちが本当にわかっているのだろうか？”と。何とか臨床心理士になって、カウンセリングをしていますが、今でも“傾聴”と“共感”は難しいと思っています。自分がわかるための面接ではなくて、相談に来られた方が“（話を聴いてもらって）来てよかった”と思って帰っていただけるような面接にしたいと思っています。形式通りの研修ではなくて、自分の中身を磨いていかないといけないなと、研修会の帰り道にふと思いました。